

## 第4回摂津市総合計画審議会（第1部会）議事録

日時：平成21年12月18日（金）14：00～16：00

場所：摂津市役所 新館7階 講堂

### 1. 議事

#### 事務局

あいさつ、資料確認

部会長 関西大学特任教授の竹内先生の紹介

出席担当課（生涯学習スポーツ課、市民図書館、自治振興課）の紹介

基本構想（案）の修正点の確認

#### 竹内部会長

今回から、総合計画の基本計画（案）について、それぞれの部会ごとに課題を審議していく。第1部会（教育・文化）以外のことで何か意見ある場合は別紙に記入をして次回にも提出いただければ、それぞれの部会で検討いただくことになっている。

それでは、5-10-42（87 ページ）から議論する。はじめに「施策の基本方向」と「平成33年3月に実現している姿」の関連性について方向と、姿が一致しているかどうかという点について議論していく。他にもっと大まかに根本的な課題で意見がある方はおっしゃっていただきたい。意見がなければこの施策の中身を議論していきたい。

#### 小林委員

生涯学習に関わる現実について若干意見交換しておいた方がよいと思う。文化連盟の立場から言うと、摂津市は北摂各市と肩を並べて、生涯学習を推進しようとする姿勢がある。現実分析から入っていかないと、これから10年間の総合計画を策定するのに無理があると思う。摂津市はこの8年ほどの間に、行革により、予算・人員のカットをしながらも、各市と肩を並べようと生涯学習の事業増やしてきた。そのことで非常に無理が生じている。もっと事業を整理・統合して減らす方向で計画を書いてもらわないと無理がある。特に生涯学習を進めるうえでは市役所の事務局体制が重要であるが、高槻、茨木、吹田と比べて非常に少数である。かつては担当として体育振興課、生涯学習課と2つあったが、生涯学習スポーツ課1つに統合された。また、9～11月にほとんどの事業が集中しており、それを数名の職員で全てこなしていかなければならない。人口8万人を目標とする以上、事業規模を減らすことを今回の大きな柱にしていきたい。皆さんの意見を聞きたい。

#### 竹内部会長

施策の中に細かい表記もあるが、総合計画なのでここで事業を検討するところま

でいかない。まずは大きなくくりで施策の方向性を議論したい。現実的な問題として小林委員が指摘された市役所の体制等の問題点とか、これまでいろんな事業を住民のニーズを踏まえて膨らませてきた経過からくる歪みがあるのは事実で、その共通認識のもとで計画について見直していくということにさせていただきたい。

#### ■施策 生涯学習の機会を提供します (5-10-42)

##### 宮田委員

現状と課題について。いろいろなイベント等の中で、若い人、青少年の参加・参画について書くべき。生涯学習は生まれてから死ぬまでだと理解している。団塊の世代のことは明確に書かれているが、これからを担っていただく方、若い世代にどうやって参加してもらうかについて表現した方がよい。

また、施策の基本方向の中に、「生きがいのある人生を」という言葉があるが、「能力を伸ばし、うるおいのある生きがいのある人生を」というように、そういうものを感じられる人生が必要であると思う。平成33年3月に実現している姿については、前回入っていない公民館が入っているのがよい。

##### 藤本委員

第2次摂津市生涯学習推進計画をみると、宮田委員の発言は、そのまま書かれている。幼児期から小・中学校時代にいわゆる生涯学習的なことが培われているということや、生涯学習に参画するうえで親子の関係などがキチッとできてはじめて、郷土愛であるとか、参加するということができるなど。学校現場でアンケートをいくつか実施したが、地域に対する思いはあるようでも、地域の行事への参加率はそれほど高くない。そういう意味で地域はいろいろなイベントを開催したりしているが、子どもを含めて人を集めるのに四苦八苦しているという現実もあるように感じる。小さい時代から親子の関係も含め郷土をどう愛していけるか、それができれば自然と地域の行事なりイベントなりできる、そういう施策に反映してもらうのがよい。

##### 竹内部会長

現状と課題のところでもそのような問題意識を記述して、基本方向の中にも、生涯学習というくくりの中で子ども達から高齢者の方々まで通じて学ぶ姿勢ということの方向性を記述してもらおう。

##### 久間委員

少し視点が違うかもしれないが、経済的にある程度きちんとしていないと、こういう機運が生まれにくい。20数年ボランティアをしているが、小学生が月に1,000円、2,000円が払えなくて辞めていく。生きがいと言っても、今、経済的に厳しい状況である。定年退

職されて退職金をいただいた方を対象と言うのなら理解できるが、子どもとなると経済的に厳しい家庭もあるので、十把一絡げに考えるのはいかがなものか。

#### 竹内部会長

言われることは分かるが、実現している姿は、ある意味、理想論的に書いている部分があるのは事実である。施策を展開していくときに、現実には子どもたちのスポーツ活動なり、学習活動にお金を払えない家庭もあって、子どもたちが辞めていかざるを得ないという問題はある。一方、学ぶ姿勢、将来を通じて学んでいく姿勢というのは子どものころから育てていく必要がある。大人になって経済的に余裕が出て、さあ学ぼうかと言っても難しい。

#### 宮田委員

話はよく分かる。ここは理念なので、こうあるべきだという話だ。

#### 竹内部会長

10年後の理想的な姿を掲げるのが総合計画である。

#### 小林委員

88 ページ、摂津市の特色や魅力のある取組みのところ、生涯学習フェスティバルを取り上げるのには疑問がある。こういう仕事が職員の負担を増やしている。今の職員と予算に合うようにしていかないといけない。もちろん市民も手伝っているが、中心は職員である。10月、11月はスポーツや他のイベントもある中で職員は夜遅くまで残業をしている。そのような具体的な取組みをまず整理してから、今回の総合計画を作らないといけないと思う。

#### 古谷委員

現実として経済的な理由で生涯学習活動に参加できない子どもがいるのに、理想に入れるのはどうかという発言があったが、逆に理想の中に書いておかないと、そういった子ども達を救い上げるような施策をとっていただけないのではないかと思う。

#### 久間委員

子どもが自分の意志で選択できるのならよい。自分に意志があっても、親にかかっている。現状として申し上げている。

#### 古谷委員

理想を横において、それを実現するためには、福祉でいろんな補助を出してもらうなどの話になるのではないか。こんな市になってほしいということであれば、かえって入れておいた方がいいのでは。

## 久間委員

福祉とは結びつかない。親がそういう依頼をしない。もし、親がさせたいと思うのであれば、私に相談するはずであるがそのような相談もない。とにかく事情があって辞めますと一言だけである。

## 竹内部会長

施策の基本方向は理想的な形で書かれているので、今の意見を踏まえて部会の意見として申し上げていきたいと思う。現状と課題については、課題認識のところでも小林委員、久間委員が言われたことが少しでも触れられるかどうか、ここは検討させていただく。

宮田委員からも33年3月に実現している姿は、項目を絞ればこれぐらいでよいのではないかという意見をいただいた。

指標の目標値は、第4回～6回の中では議論せず、第7回に、この議論を踏まえて事務局から目標値を案として出していただく予定。検討中のみ進める。

施策の展開のところでも、先ほど小林委員からも発言があったが、全体会の議論の中でもあったように、理想を実現するための重要な施策展開は◎、実現するために必要なものが○となっていて、各部局から出している。生涯学習では5つ項目あり、上2つが事務局案として重要な施策であるという考え方であるが、この辺は問題ないか。

## 宮田委員

生涯学習のリーダーバンクについて内容を聞きたい。

## 生涯学習スポーツ課

人材の登録名簿のようなものである。昔は生涯学習のグループが何か学習をしようと思ってもどんな講師がいるかが分からず、取っ掛かりがなかった。このような登録制度による名簿があればそれを活用できる。

講師の先生に登録いただいて、それを各グループに示して、直接やり取りをしてもらっている。

## 竹内部会長

生涯学習に取り組んでいるグループには、そういう方が登録されているということを告知しているのか。

## 生涯学習スポーツ課

名簿などを送っている。

#### 小林委員

4、5年前から実施しているようであるが、市民から講師依頼があるのは、市役所の消防などだけで、生涯学習についてはほとんど活用がないと聞いている。

#### 生涯学習スポーツ課

今おっしゃったのは、消防、介護など、職員が持つ知識や技能を伝える生涯学習出前講座のことである。リーダーバンクは別のものである。出前講座の市民編というものもあるが、単発で講師を呼ぶ場合であり、リーダーバンクは長期的なもの。将来的にはこれをリーダーバンクに一本化することを考えている。

#### 宮田委員

生涯学習フェスティバルについて掲載に疑問があるとのことだが、この事業は実行委員会形式で実施しており、大半はボランティアである。確かに市の職員の負担もあるが、作業のかなりの部分は無償のボランティアがやっている。

#### 竹内部会長

もっと市民が参加してフェスティバルを充実させるという方向でいくとよいと思うが。

#### 小林委員

しかし、参加する市民が増えればそれだけ職員を増やさないと、市民だけではできない。

#### 竹内部会長

まさにそこは、事務局が担ってきた部分で、ボランティアに任せられる部分は、どんどんボランティアに任せるといって書く。せっかくの摂津市の魅力ある取組みを、行政組織の問題でなくしてしまうよりも、市民がもっと関わって盛り上げて、より充実したものにしていくという方向性の方がよいのではないか。

#### 小林委員

市民が中心となつてとか、市民参加で、などの文言を入れてもらうことが必要である。

#### 竹内部会長

実行委員会が主体というのがある意味、市民参加。行政が主体となるのではなく実行委員会形式でやるというのが、まさにそういうことだと解釈している。

フェスティバルの手法は今後、施策で工夫していく。市民の参加する実行委員会と書いて、より分かりやすくすればよい。

### 宮田委員

施策の展開の、生涯学習情報の提供について。多様な手段で情報を発信すると書いてある。ホームページなども含めた中で充実するとなっているが、実際、せつつ生涯学習大学院生がヒアリング形式のアンケートを行った結果、イベント情報を知らない市民が多いことが分かり、イベントが多い9～11月に向けてイベント情報誌（パンフレット）を作った。ホームページを見ることができる人はまだまだ限られている。ホームページを充実するのは当たり前であるが、より目に見えるものとしてパンフレット（紙媒体）などの充実も含んでほしい。

### 竹内部会長

タイトルを単なる「提供」ではなく、「提供の充実」「提供の拡充」というように追記する。

### 小林委員

語句だけのことではなく、市の広報を充実すればよい。摂津市は行事の後追いが多い。これから何をするかという情報が少ない。広報の変革（充実）を考えていく必要がある。文化ホールの催しは書かれるが、各地で行う文化的な催しや、スポーツについては後追いでこんなことをやったと写真を載せている。

### 竹内部会長

市の広報の充実については視点として必要だが、部会が異なるので、そちらへの意見を書いてほしい。

### 古谷委員

摂津市の図書館は、市民図書館と鳥飼図書センターの2つだけ。以前、福祉会館があったときは、読書室があった。安威川以南と以北で偏ったところにしか図書館がない。遠くて使えない、行けない人たちが、もっといろんなところで図書を利用できるようにする工夫が必要である。子どもたちには学校の図書室がある。

### 事務局

施設の建設は難しいが、学校の図書室の活用や、図書館以外の場所における図書の貸出・返却などの工夫は可能かもしれない。

### 竹内部会長

ここは整備だけではなく、効率的利用の促進や、小中学校の図書館との連携など、図書館ネットワークの視点を入れる。どこまで書けるかは担当課で検討する。

#### 福井委員

今日初めて生涯学習のリーダーバンクの存在を知った。多くの市民は同じではないか。生涯学習フェスティバルも初めて聞いた。ほとんど知られていないと思う。実際にどういうことがされていて、これからどうしていくのかということ、もっと知ってもらうことが大事。

#### 竹内部会長

市民参加が言われ出したのは最近である。今までは行政がやることという感覚で我々は関係ないという市民感覚もあった。市民参加という意識がかなり高まっているので、行政側も市民に発信していく必要があるが、市民側も行政の動きを積極的に見ていく必要がある。

#### 古谷委員

私もリーダーバンクと出前講座の違いは分からなかった。こういう活動をしていることをもっと市民に周知するべきだ。リーダーがいても市民が知らなければ使わない。

#### 竹内部会長

周知、充実などの文言を入れるか。

#### 事務局

ここには、養成と活動機会という形で、提供する側から書かれている。学習をしていたくためには、受ける側への周知が必要なので、その表現を付け加える。

#### **■施策 市民による文化・交流活動を支援します (5-12-48)**

#### 竹内部会長

ここも「施策の基本方向」、「33年3月に実現している姿」について整合性が取れているかどうか。あるいは、抜けていることなどのご意見があれば。

#### 事務局

本日ご欠席の石川委員から、現状と課題の中に国際交流面の現状が書かれていないという指摘があったので、追記したい。

#### 竹内部会長

基本方向の結語として、「新しい都市文化を創造する」とあるが、平成33年3月に実現している姿には新しい都市文化の創造が見えない。理念的には分かるが、どちらかを修正する必要がある。検討していただきたい。

### 久間委員

実現している姿の3番目に、急に外国人が出てきているが、今は安心して暮らせないのか。仕事で帰化申請など扱っているが、確かに賃貸マンションが借りにくいなどがあるので支援が必要とは思いますが、どんな支援が必要なのか、外国人からの申し出などはあったのか。

### 自治振興課

日本語教育などの支援をしているが、言語の問題などでいろんな活動に参加できない、地域に溶け込めないなどの状況を聞いている。地域で交流を深めていただきたいがなかなか難しい。外国人自らと言うよりも近隣住民から話を聞いている。

### 事務局

溶け込めない、分からないことが原因で結果的にトラブルが発生してしまうということである。安心して暮らせると言うより、不安を取り除くという方が近い。

### 古谷委員

安心と書くと防犯のイメージがある。

### 竹内部会長

表現がネガティブである。前向きに、ポジティブに、「仲良くやっていける」「地域に溶け込める」など、表現を改める必要がある。

### 事務局

実現している姿を確認する指標が、国際交流協会会員数となっているが、これも交流会の回数であるとか、ポジティブな指標にした方がよいと考える。

### 竹内部会長

外国人の方も、日本人の摂津市民も、行政も積極的に仲良くやっていくという姿勢が見えればよい。

### 古谷委員

国際交流協会会員数は指標としてふさわしくない。会員のほとんどが日本人である。

### 竹内部会長

交流事業の数を増やすなどがよいと思われる。

#### 宮田委員

文化という表現について、本来、文化はとても広い意味があるが、文化・芸術・スポーツ活動という分かりやすい表現にした方がよいのではないか。

#### 竹内部会長

スポーツは別の施策にあるので、文化・芸術とするのがよい。  
施策の展開についてはどうか。

#### 小林委員

文化・芸術関係の活動の場である文化施設の整備、充実については、使用料に偏りがある。フォルテ摂津、正雀市民ルームの使用料は非常に高く、ふれあいルームは非常に安く10倍ほどの開きがある。公民館はさらに安い。簡単に施設の充実と書くが、実際使用する団体からすると使用料負担の問題がある。来年7月にコミュニティプラザが開館する予定であるが、どのように整合性を図るのか。

#### 事務局

コミュニティプラザの建設を機に、市全体の文化施設の使用料等について、見直しを進めている。

#### 小林委員

総合計画に書くにあたっては、実際の中身の議論をしておくべきで、明確にしておく必要がある。「改修や設備の充実を図り、有効に活用できるように」とあるが、どこの改修かが分からない。コミュニティプラザ、公民館についてもあまり書かれていないがどうか。

#### 竹内部会長

公民館も文化活動に使用しているのか。

#### 小林委員

もちろんである。文化連盟加盟団体118団体のうち、半数以上が公民館で活動している。

#### 竹内部会長

文化施設というくくりの中に、公民館が入っているということだろう。

#### 事務局

新計画スタート時には、コミュニティプラザはすでに開館しているので、活用、つまり

中身の充実を図っていくことが中心となる。

#### 小林委員

利用上のことについて、もっと記載が必要ではないか。

#### 竹内部会長

利用しやすいという文言の中に、利用しやすい設備、利用しやすい料金設定も含めていくという理解ができるだろう。

#### 事務局

市民との協働の文化振興のところの、文化連盟、音楽連盟など文化関係団体の自主的な活動の支援のメニューとして、料金制度などのことも考えられる。

#### 小林委員

摂津市は吹田市や高槻市などのように団体への補助金はなく、施設提供しかしていない。8万人都市だからしかたがないが、吹田市などは活動費など膨大な補助をしている。市の美術展で賞をとったら何万円ももらえるというところもある。そんな状況の中で摂津市の団体はがんばっているので、コミュニティプラザの使用料については配慮してほしい。

#### 宮田委員

創作、発表、鑑賞の機会の提供とあるが、この項目以外は、機会の提供と情報提供が併記されている。「機会の提供を図るとともに、市民に対して情報提供を図ります」というようにしてはどうか。意外とどこで何をやっているか知らない市民が多い。

#### 福井委員

ふれあいルームは市民がいろんなことによく使っていると思う。しかし、大会議室を使うとマイクなど全部で1万円くらいかかる。全体的に見直してほしいと思う。

#### 竹内部会長

今おっしゃったことは総合計画と言うよりも、使用料のあり方の問題といった細かいところになるので、市当局に検討していただきたい。総合計画に利用しやすいと書くのだから、それに見合った料金体系も市当局として考えてもらうということではいかがか。

#### 古谷委員

これだけ使用料の話が出ているのであれば、「利用をしやすい」のところに「使用料を含め」などの表現を入れるべきではないか。

## 事務局

そこは事務局で、文言を検討する。

## 古谷委員

国際感覚を持った人材の育成について、現在、ホームステイは受け入れの方だけである。こちらから行かせてもらえるわけではない。受け入れ先で国際交流を図るという意味。今、向こうへ行くのは、高校生のテストエクスチェンジと、たまに中国に行っているだけでホームステイはない。向こうから来たときに受け入れているという感じである。

## 事務局

外国へ行く形での交流ではなく、摂津市でできることを中心に書いている。特に明確に記載した方がよいか。

## 竹内部会長

ホームステイというのは単純にどちらも意味がある。将来的には行けるかもしれないという可能性も残す。

## 藤本委員

在日外国人への施策であるが、子どもは学校を通じて交流をしている。しかし、生活・言葉の面でしんどいのである。ここには、場の提供と書いてあるが、ただ門戸を開いても外国人の方は行きにくいものだ。もっと、こちらから積極的に取り組む必要がある。門戸を開くだけではいろんなことをしても不十分。

## 竹内部会長

交流機会をつくるだけでなく、もっと積極的なニュアンスの出る文言に事務局で見直すように。

## 古谷委員

声かけとかが必要。子どもさんが学校から持ち帰るプリントが読めなくて、何があるか分からないという人もいる。

## 藤本委員

国際交流協会のお世話になって、翻訳は充実している。

## 久間委員

そういう場に来る人はどういう方で、どのくらいの人数なのか。

#### 藤本委員

夫婦とも外国人の方もいる。

#### 事務局

工場等での労働を目的に転入してきた人の中には英語も通じない人がいる。外国人登録者数は市全体で 1,100 人ほどである。これは日本にずっと住んでいて日本語が大丈夫な人も含んでいるので、生活・言葉の面で困っている人は、数だけで言えば多くはない。

#### 藤本委員

しかし、実際にそういう人たちはいて苦労している。こちらから場を提供してもなかなか参加できないということがある。

#### 久間委員

そういう人たちはこちらが場を提供してもなかなか参加できないのではないかと。施設を開けていても仕事をしていなければ平日の 9 時～5 時の時間帯は行けない。

#### 古谷委員

夜もやっている教室はある。

#### 竹内部会長

機会とあわせて、もっと積極的な表現にする。

国際感覚を持った人材の育成の文章が、「国際意識を醸成」とあり、意味があわない。人材の育成なら、「人材を育成します」という結語になるべき。「国際意識、国際感覚を醸成します」であればいい。施策が人材育成ならどういう形で人材育成をするのかということになる。

事業者の役割のところ、「外国人の雇用を積極的に行います」と書いてあるが、行政として積極的に行うという表明をされているのか。どういう意味で書いているのか。

#### 事務局

行政が事業者に働きかけるという意味ではなく、事業者が取り組まなければ、この施策の目標は達成できないということ。石川委員から国際交流ではなく産業施策の方に移した方がよいのではないかとこの意見があったので、事務局としてはそのようにしたいと考えている。

#### 竹内部会長

国際交流というよりも外国人雇用の問題として、産業施策へ移す。

## ■施策 郷土の文化を継承します (5-12-49)

### 竹内部会長

次は 5-12-49「郷土の文化を継承します」ということで、基本方向、33 年に実現している姿について何かご意見があれば。

### 小林委員

指標に「ふるさと摂津案内人数」が載っているが、団体で言えば、文化財愛護会もある。市制施行当時に発足して現在も頑張っている。なぜ取り上げていないのか。

### 生涯学習スポーツ課

実現している姿の所に「次世代に引き継ぐ」とあり、それに照らし合わせると、ふるさと摂津講座を勉強された方が、自分の知識を案内人として広めていただくということで、案内人の指標を出しているのであって、文化財愛護会が日々地域で活動されていることを評価しないということではない。

### 小林委員

文化財愛護会の方が歴史もあり、市民参加でいろいろとやっている。長年にわたり活動して事業も多い。それから、郷土資料館はないのに、なぜ「郷土資料館来場者数」が指標となっているのか。

### 竹内部会長

団体名を入れるかどうかは別だが、歴史とか郷土・文化財の活動に関わる数が増えたらよい。

### 小林委員

埋蔵文化財の発掘についても触れられていない。これは入れるべきだと思う。

### 竹内部会長

施策の展開に文化財の適切な保存という表現がある。保存の前に当然発掘があるはずだからそこに入れてはどうか。

### 小林委員

施策の展開にも、郷土資料館はない（できそうもない）のに書いている。今までやってきたこと、今やっている事業を書くべきである。

#### 竹内部会長

これからの計画なので現状の事業だけを書くわけではない。

#### 小林委員

計画であれば、現状値のところでも今やっていることが表現されるべきである。

#### 竹内部会長

「郷土資料館来場者数」を指標に掲げるのであれば、施策の展開に「郷土資料館の整備・設置」がないのはどうか。行政としての財政折衝等いろいろあると思うが、指標として掲げるのであれば、取組内容としては◎になる施策だと思う。

#### 生涯学習スポーツ課

現状を踏まえると、郷土資料館という新しい施設を建てるのは難しいので、既存の施設を活用し、郷土資料館として整備していくという方向。それはこの10年に実現性がある。

#### 竹内部会長

「既存の施設を活用し郷土資料館とする」というような文言にしてほしい。

#### 宮田委員

施設の整備だけでなく、どういう運営をしていくべきかを取組内容に入れて考えていくべき。

#### 竹内部会長

取組内容については、そこへ直接行政が関わらなくとも、いろんな人たちが関わって運営していくということになればいい形になる。

#### 小林委員

文化財の適切な保存であるが、一津屋の第6集会所がある。立派な文化財の保存にもなるので、これを考えるべき。新修撰津市史の発行はやるべきだと思う。平成に入ってからダイジェストは作ったが、昭和52年に発行してから30年以上経つ。

#### 生涯学習スポーツ課

第6集会所は大正時代の大阪府でも珍しい建物と聞いている。国・府の指定文化財は難しいと思うが、国の登録文化財の値打ちはあるのではと聞いている。文章中の近代和風建築物がそれを指している。市としてその建物をどうするかは市民の意見も聞きながら検討する課題である。

#### 小林委員

検討しますは行政用語でやらないという意味だ。もっと文化財保護に取り組んでほしい。

#### 竹内部長

「検討します」は計画の表現としてはよくない。「取り組みを進めます」等の表現に見直す。

#### 生涯学習スポーツ課

市史は市の歴史を形どるもので市政施行 50 周年にあわせて発行したいと考えている。今は、写真などの資料を整理している段階。50 周年のときに完全版として全てを出した方がよいのか、古代から中世までとか分けたほうがよいのか、などを議論している。あわせて小学生・中学生が市史を理解できるような簡単なイラストなどの入ったものも合わせて出したいと考えている。

#### 宮田委員

事業者の役割のところに、「イベントや講座のPRを行う」と書かれているが、誰がやるのか。

#### 生涯学習スポーツ課

イベントや講座は市のホームページや広報紙などで積極的なPRをしているが、事業者も会社の食堂など社員の目に付くところにポスターを貼って、社員にPRするなどといったことをやっていただきたいと考えている。

#### 久間委員

典型的な役所言葉が頻繁に出てくるので、もう少し噛み砕いた表現にしたほうがよい。

#### 事務局

用語解説は別途つける予定である。

#### 古谷委員

指標にイベント参加者数とあるが、施策の展開にイベントに関する表記がなく、整合していない。

#### 事務局

確かにその通りなので修正する。メインの施策展開はイベントではないが、計れるものがなく、イベント参加者数を上げた。考えさせていただく。

## 竹内部会長

よりよい指標を事務局で検討いただきたい。

## ■施策 スポーツ・レクリエーション活動へ参加・参画しやすい環境づくりをすすめます

(5-12-50)

## 竹内部会長

機会の確保、スポーツ・レクリエーションの振興が基本方向、33年までに実現している姿として施設利用者、イベント参加者が増えるということを挙げている。

## 久間委員

隣接する茨木市、高槻市、吹田市と比較するとスポーツ施設が脆弱である。市民体育館もなくなったのに、実現している姿で、利用者数が増えているとしていることがよく分からない。今後、施設を建設する予定も、場所もない。施設がないのに利用者数は増えない。

## 竹内部会長

施策の展開のところに、「吹田操車場跡地に総合体育館を建設します」となっているが、市として建設するという事なのか。総合計画に書いたら市としてやらざるを得ないが。

## 生涯学習スポーツ課

担当課としては要望している。

## 久間委員

体育館に関して、これから子どもがいなくなったら小学校の体育館は使えない。バドミントン、卓球ぐらいなら少し改修すれば使えるだろうが。ただ、屋外に関しては場所がないので増えない。この利用者数が増えるというのは何をもち増えるというのか。また企業のスポーツ施設はどんどん使えなくなっている。スポーツ振興と言っても、それに伴う施設が全く整備されていない。一時は人口あたりのテニスコート数が大阪府内で上位にあった。既存施設も整備がなされていない。あるテニスコートは地面の凹凸があり危ないと聞いた。既存のものをきっちりと整備していくことが大事である。新しく建設するのは無理だ。吹田操車場跡地には期待しているが。

## 竹内部会長

施設に関しては、かなり思い切って書かれていると思う。ある意味、ハード面よりもソフト面で利用者を増やしていく、ハード面が物理的に無理なのはわかっている。ソフト面でスポーツに親しめる仕掛けづくりがあって、最終的にスポーツに親しむ人が増えるという1つの施策の方向があるのではないか。

## 久間委員

卓球を例にすると、吹田市では、いつ行っても卓球ができる場所がある。連盟からもそのような要請があり積極的にやろうとしているが、市からはスペースがないという回答である。ソフト面では、種目ごとの責任者はやろうとしている。場所がないのだ。

## 古谷委員

現状でも、学校の体育館の利用は多く、予約が取れない。これ以上使わないでほしいという感じである。中学校はクラブ活動との兼ね合いもある。また、旧三宅小学校、味舌小学校のスポーツセンターは使いにくいと聞いている。以前は学校で全体が借りられたのに、グラウンドと体育館を同時に借りることができないなど使い勝手が悪い。

## 久間委員

摂津市は施設の整備、運営が悪い。

## 竹内部会長

摂津市に限らず、行政全般に言えることで、施設をつくった後、メンテナンスを考えていない。

## 久間委員

ソフト面で、地域の役割のところ、総合型地域スポーツクラブがある。これは文部科学省からも指示がある。しかし、体育協会も種目ごとにあって活動している。廃校になった小学校の体育館などを拠点として新たにこの活動すると会費が発生するので、会費の負担が増える。今までやってきたことを辞めて総合型地域スポーツクラブに移行するのか。また、どのような指導者がここにいるのか、内容も漠然としている。改めてこれをつくるのは如何なものか。

## 生涯学習スポーツ課

文部科学省が平成 22 年までに全国につくろうとしている。運営に対しての補助金制度もある。総合型地域スポーツクラブは、そこに行けばスポーツができる環境づくり。いろんな種目を体験できるようなクラブで、スポーツのきっかけづくりを考えている。

## 久間委員

つくるのが前提になっており運営の議論が抜けている。大阪府からも説明があったが、よい例ばかりでうまくいかなかったケースは言わない。補助金があるからつくるといふのであれば破綻するのは目に見えている。

### 生涯学習スポーツ課

実際のところは、補助金のあるときに始めて補助金がなくなったら辞めるようなケースもあるが、将来的には会費で運営をまかなう、会費制のクラブを想定している。

### 久間委員

スポーツに取り組みたい人は、すでに体育協会で活動されている。総合型地域スポーツクラブができたからといって二重に会費を払ってまで行くとは思えない。

### 生涯学習スポーツ課

総合型地域スポーツクラブはスポーツを通じた出会いの場である。そこへ行けば誰かがいてバドミントンや卓球ができるような地域の社交の場である。

### 宮田委員

選択の機会が増える。より多くの人利用しやすくなる可能性があるのではないか。

### 久間委員

20 数年、体育協会に携わってきたが、似たような組織を新たにつくるわけで、誰が指導者として座るのか。何でもできる万能選手でなければいけない。誰かを探すのか。野球連盟、ソフトボール連盟から指導者を借り出せば、体育協会がなんらかの形で携わることになる。団塊の世代が定年退職した後の出会いの場を提供することは必要。勤め先が市外で、自治会活動にもほとんど参加していない、地元知り合いがいない人が日曜日どこか行けば何かできるという発想ではないか。確かにそのような人はいるが地域でそれぞれグループを作られている。わざわざこんなお金と労力をかけてやる必要があるのか。

### 竹内部長

体育協会と両立、連携できるような整理が必要である。課題が多いという久間委員の意見を踏まえて、実際の施策を展開するとき、総合型地域スポーツクラブをどういう方向に持っていくのかを考えるべきだ。目指す方向としては、こういうものをつくるという方向でよいか。

### 福井委員

スポーツ環境と施設の整備については、屋外のプールを是非つくってほしい。私が子育てしていたころはたくさんの市民が市民プールを使っていた。市外からも来ていた。子どもに住みよいまちを目指すのであれば、是非ともつくってほしい。

それから、旧味舌小学校の体育館の使用申し込みはふれあいルームに行かないとできないことになっている。なぜもっと使いやすいようにできないのか。

### 竹内部会長

料金同様、審議会の部会の意見として出たことを書く。基本計画に細かいところまでは書けない。施設の整備と言う一定の方向を出しているので、屋内体育施設、屋外体育施設、温水プールとせず、体育施設という表現にまとめる。

### 事務局

最初に指摘があった指標について、利用者数を利用率に変えたい。

### 久間委員

稼働率がよいだろう。

### 宮田委員

生涯学習部の中に文化もスポーツもあるのだが、これだけ高齢化が進むのであれば、組織のあり方として、生涯学習係とスポーツ係ということも考えてほしい。同じ部署にあるということも施設の管理や調整機能を持つということで重要だが、もう少し、組織改革を含め、市全体として生涯学習に取り組んでほしい。

### 竹内部会長

計画をつくって施策の展開が明確になってくると、それに合わせて組織も変えていく必要がある。

今日出た意見は事務局でまとめ、反映していただく。

大きな話として、8万人のうちの25%、つまり2万人が60歳以上になることを考えると、この2万人に生涯学習やスポーツでどれだけいきいきしてもらうかがポイントとなってくると思う。これは市の活力にもつながってくる課題であり、その点で、今日の生涯学習と芸術・文化、スポーツは大事である。

もう一点、こういった人たちを学校教育に活用して連携を図ることが大事であろう。この部会の学校教育の中でも議論していきたい。

## 2. その他

### 事務局

第3回議事録の訂正確認。

次回審議会の連絡：1月15日（金）14時～16時開催

以上